政策③　未来への活力を育むまちづくり

基本目標７　活気あふれるまちづくり

施　策　7-1 産業の振興とブランド産品育成

農産物、水産物を小松島市の誇れるブランドとしてさらに推奨し、担い手の人材育成を図りながら、担い手が、いきいきとやりがいを持てる農林水産業の振興を図ります。また、本市の雇用の大部分を支える中小企業への支援を継続します。さらには、中心市街地の活性化に取り組み、空き店舗の有効活用を図るとともに、活性化イベントの開催などを通じた交流人口の増加をめざします。

＜個別指標＞

成果指標の名称	単位	平成 29 年度から平成 33 年度累計	備考
新規雇用者数（5 か年度累計）	人	200 人	総合戦略
新規事業所設立数（5 か年度累計）	件	5 件	総合戦略

成果指標の名称	単位	基準年度（平成 27 年度）	平成３３年度	備考
６次産業化商品化件数	件	4 件	28 件	総合戦略
新規就農者数	人	1 人	7 人	総合戦略
多面的機能支払交付金事業活動面積	ha	870 ha	980 ha	
認定農業者数	経営体	81 経営体	93 経営体	
有機農業に取り組む農業者数	人	46 人	60 人	
農地集積面積	ha	81ha	415ha	

政策③　未来への活力を育むまちづくり

基本目標７　活気あふれるまちづくり

施　策　7-1 産業の振興とブランド産品育成

基本方針　7-1-1 農林水産・商工業の振興

現況と課題

ブランド産品育成　地産地消及び６次産業化の推進

本格的な人口減少社会の到来により、今後、とりわけ地方の衰退が加速することが懸念されていることや、グローバル化や情報化の進展に伴う経済環境の変化を受け、「食料・農業・農村基本計画」が策定され、国産農産物の消費拡大を目的に、関係府省が連携した地産地消の更なる推進が図られています。

本市では、輸入産物、競合産地に打ち勝つ産地供給体制づくりを進めつつ、市、農協、漁協で組織するこまつしまブランド戦略推進協議会を中心とした６次産業化促進に向けた支援をはじめ、国内外に誇れる安全・安心な小松島産農林畜水産物を情報発信し、関西のみならず、首都圏や海外などの新規市場を開拓する為、知名度や信頼性を高めるべく、「こまつしまブランド」の確立に向けた取り組みが課題となっています。

台湾百貨店での農林水産物のＰＲ

東京での物産イベントの参加

次代を担う人材育成・支援

農業を取り巻く社会･経済情勢は、農業従事者の高齢化と担い手の減少、耕作放棄地の増加、グローバル化による国際的な農産物の競争激化､食に対する消費者の信頼性低下など多くの問題が顕在化し、厳しい環境に直面しています。

耕作放棄地面積

年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
面積（ha）	28 ha	29.2 ha	24.9 ha	27 ha	28.5 ha

国では、「人・農地プラン」の策定や農地中間管理機構の新設による担い手の確保や農地集積を加速化させる施策が実施され、地域農業の担い手として位置づけられた認定農業者への期待が高まっています。

こうした施策に対応するため、認定農業者が地域農業のリーダーとしての自覚と自信が持てるよう資質向上に努め、県、農協など関係機関・団体等と連携し、農業経営の改善や担い手の育成・確保などを一層推進するとともに、経営感覚に優れた効率的かつ安定的な農業経営を行うプロの農業者を育成していくことなどが課題となっています。

環境に配慮した農林水産業の推進

本市に広がる田園地域は、身近な自然環境であり、多様な野生生物が生息・生育する生物多様性の豊かな空間です。しかし、農薬や肥料の不適切な使用は、田園地域の自然環境だけでなく、河川等を通じて水質を悪化させ、漁場環境へも悪影響を与えるなど、生物多様性への広範な影響が懸念されます。

田んぼの生きもの調査

こうしたことから、地域における生物多様性の保全、安全・安心な農産物の生産及び持続可能な農業の実現をめざすことを目的に、小松島市生物多様性農業推進協議会を設立し、生物多様性農業の推進に関する各種事業に取り組んでいます。

「田んぼの生きもの調査」回数

年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
回数	７回	５回	５回	５回	９回

また、平成２７年度には、自然循環機能の増進や環境への負荷の大幅な低減、生物多様性の保全等といった有機農業の有する多面的機能をいかしていく取り組みを幅広く支援するため、小松島市有機農業推進計画（第２期）を策定し、高品質で多収穫な有機農産物づくりを推進するとともに、徳島県と連携し、「とくしま安²GAP農産物」※1 や「エコファーマー」※2 の認証の推進を図っています。

徳島県知事認定

※１ とくしま安²GAP 農産物…「食品安全」に加え、「環境保全」や「労働安全」にも配慮した、優れた農業生産・品質管理体制を認定するもの。

※２ エコファーマー…土づくりと化学肥料・化学農薬の使用の低減を一体的に行う「環境にやさしい農業」の実践者のこと。

エコファーマー認証件数

年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
認証件数	52 件	71 件	82 件	84 件	78 件

生産基盤の整備及び保全

本市南部においては、那賀川水系の利水により水稲を中心に、ブロッコリー、きゅうり等を組合わせた農業経営が展開され、地理的な条件をいかして、京阪神への生鮮食料供給基地の役割を担っています。しかし、都市化・混住化が進み生活雑排水が地区内の水路に流入してくることで農業用水の水質が悪化し、水稲栽培に支障が生じています。

農業・農村は、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成等の多面的機能を有しており、その維持・発揮を図るための地域の共同活動に係る支援が必要です。また、意欲ある農業者が農業を継続できる環境を整えるために、農地・農業水利施設等の整備を実施し、生産効率の向上を図っています。

魅力ある農山漁村づくり

農林水産業・農山漁村を取り巻く情勢は、過疎・高齢化の進行による生産力や担い手不足、経済のグローバル化の進展に伴う輸入産物の増加による農林水産物価格の低迷、消費者の食の安全・安心の確保、環境に対する意識の高まり、価値観、ライフスタイルの変化への対応など様々な課題に直面しています。今後とも農林水産業・農山漁村の持続的発展を図るためには、こうした社会、経済状況の変化に的確に対応していくことが何よりも重要です。

本市の魅力ある農山漁村づくりには、都市圏からのグリーンツーリズムなどの農業体験や新規就農者への支援をはじめ、例年 11 月に開催される「こまつしま・うまいもん祭り」や、毎月定期的に開催される「みなと海鮮朝市」における水産品販売促進に向けた交流イベントなど、小松島に魅力を感じていただけるような農山漁村の振興や、活性化に資する取り組みの推進なども必要です。

こまつしま・うまいもん祭り

中小企業の振興及び企業誘致の推進

事業所のほとんどが小規模企業で構成されている本市では、中小企業が経済の基盤として、雇用の大部分を支え、市民生活の中で重要な役割を果たしています。しかし、経済のグローバル化や急速な少子高齢化の進展と総人口が減少局面に入る等、中小企業の経営環境は一層厳しさを増しています。本市の雇用の大部分を支える中小企業の実態把握に努め、中小企業の振興に関わる市民・企業・団体など様々な主体とともに、地域社会における中小企業の重要性について認識を共有しながら、社会全

体で連携・協働し中小企業を支援していくことが必要です。

また、新たなブランド産品の開発支援や６次産業化を推進し、地場産業の育成支援を行うことも必要です。中心市街地の活性化を図る点からも、空き店舗の有効利用促進を図りつつ、本市での創業希望者に対する支援を行うことも重要です。

事業所数・従業者数及び製造品出荷額等（4 人以上の事業所）

年	事業所数（所）	従業者数（人）	製造品出荷額等 (万円)
平成 22 年	96	2,314	5,222,435
平成 23 年	87	2,089	5,014,961
平成 24 年	88	1,967	5,014,372
平成 25 年	88	1,894	4,847,171
平成 26 年	81	1,863	4,903,246

資料：県統計戦略課「徳島県の工業」、経済産業省「工業統計調査（市区町村編）」

重要事項

ブランド産品育成　地産地消及び 6 次産業化の推進

◆ブランド化を促進する取り組み◆

「小松島産農林畜水産物のブランド化を加速化させていきます。」

◆水田農業の振興◆

「水田をフルに活用し、飼料用米など新規需要米や戦略作物の作付拡大に取り組み、水田農業の経営安定を図ります。また、消費者のニーズに応える売れるコメづくりを推進します。」

◆地産地消を促進する取り組み◆

「地産地消を推進し、産直施設等への支援や学校・病院・福祉施設、市内飲食店等での地元食材の利用拡大を図ります。」

◆６次産業化を促進する取り組み◆

「農林漁業者と商工業者等とのネットワークづくりや、地域資源を活用した新たな商品開発、販路開拓など６次産業化に取り組みます。」

次代を担う人材育成・支援

◆多様な担い手の育成◆

「若者・女性など次代を担う多様な担い手の確保・育成を図るとともに、新規就業者の受け皿となる生産組合など法人組織等への支援を行います。」

◆担い手への農地集積・集約化の推進◆

「担い手への農地集積と集約化を進め、規模拡大による生産コストの低減を図るなど、担い手の体質強化と経営の安定化を図ります。」

環境に配慮した農林水産業の推進

◆安全・安心な農林水産物等の生産に向けた支援◆

「安全で安心な特色ある地域農林水産物等の産地育成・ブランド化に取り組みます。」

◆生物多様性農業の推進◆

「生物多様性の保全や環境に配慮した、持続可能な農業の取り組みを応援します。」

生産基盤の整備及び保全

◆農林畜水産業の振興◆

「農林畜水産業の振興を図るため、優良な生産基盤の整備を推進します。」

◆優良農地の確保と耕作放棄地の防止◆

「優良農地の確保や耕作放棄地の防止を図ります。」

◆漁場環境等の保全◆

「漁場環境の保全や森林の有する公益的機能の維持等を図ります。」

魅力ある農山漁村づくり

◆魅力ある住みやすい農山漁村づくり◆

「地域資源をいかした集落の活性化や、都市住民等との交流、集落への移住･定住促進を図ります。」

◆放置竹林解消による里山の再生◆

「竹を使用した新たな製品開発等を支援することにより、里山の再生に取り組みます。」

中小企業の振興及び企業誘致の推進

◆中小企業の多様で活力ある成長発展◆

「中小企業の実態を把握し、社会経済情勢の変化に適切に対応します。」

◆新たな産業の育成と企業誘致の促進◆

「地場産業の強みをいかしつつ新たな産業を育成し、港湾施設等地域資源を活用した企業誘致を促進します。」

◆魅力ある商店街づくり◆

「商店街のイメージアップにつながる景観づくりや、商店連盟等への支援を行います。」

◆中心市街地の活性化◆

「にぎわいのある魅力的な中心市街地づくりを促進します。」

その他の取り組み

ブランド産品育成　地産地消及び６次産業化の推進

●ブランド産品の育成及び産地化を図るため、生産・流通施設等の導入支援を行います。

●生産者や関係団体等と連携し、京阪神や首都圏、海外等に向けてのマーケティングやＰＲ活動を展開し、販売力の強化と「こまつしまブランド」の確立に向けた取り組みを推進します。

●情報誌やインターネットなど各種メディアを通じて、消費者に産地情報やイベント等の情報を発信します。

●農林水産業体験や地元食材を使った料理体験、食のイベント等を通じて、食育の推進を図ります。

●小松島市ふるさと応援寄附の返礼品として、平成２６年度からは「いのち育むたんぼ米」を、また、平成２８年度からは、本市推奨の魚・鱧を期間限定で追加するなど、ブランド産品の魅力発信に向け、引き続き取り組みを推進します。

次代を担う人材育成・支援

●「人・農地プラン」等の作成・見直しなど地域の合意形成に向けた支援や、地域の中心となる経営体による農地集積など規模拡大に向けた支援を行います。

　また、認定農業者など担い手への重点支援を行うことにより、経営改善や６次産業化に取り組み、地域農業を担い先導する経営体や、優れた技術と管理能力を有する農業者を育成します。

●農地中間管理機構を通じて、農地の利用集積が促進されるよう、関係機関等と連携し、農地の出し手と受け手となる担い手との利用調整や営農支援に取り組みます。

●青年・女性農林漁業者や新規就業者及び就業希望者等に対して、生産技術や経営管理能力の向上等に向けた支援を行うことにより、地域の農林水産業の担い手を育成･確保するとともに、Ｕ･Ｉ･Ｊターン者の受入促進を図ります。

技術講習会

環境に配慮した農林水産業の推進

●「小松島市有機農業推進計画」に基づき、高品質で多収穫な有機農産物の生産拡大と有機農業者の育成を図るとともに、エコファーマーの認証を推進します。

●有機農業の普及を図るため、ＮＰＯ法人とくしま

有機農業サポートセンター等と連携し、栽培技術講習会の開催や、有機ＪＡＳ認証の取得に向けた支援を行います。

●小松島市生物多様性農業推進協議会を中心に、「田んぼの生きもの調査」や生き物を育む取り組みを実施し、農村地域の多様な生き物についての理解の促進や自然と共生する地域づくりをめざします。

●地域資源を活用した「椎茸廃菌床たい肥」、「ミミズたい肥」など、地域内における安全で安心な農産物を生産、普及するための資材開発や仕組みづくりに取り組みます。

●有機農産物等の販売促進を図るため、ホームページ等による予約販売や「オーガニック･フェスタ」などイベント等でのＰＲ活動を展開します。

●関係機関等と連携し、高病原性鳥インフルエンザなど家畜伝染病の発生予防やまん延防止に向けた危機管理体制の強化を図ります。

●横須・金磯海岸、和田島海岸などの海岸清掃及び漁協組合による海洋ごみの回収等により漁場の環境改善を図ります。

生産基盤の整備及び保全

●国営総合農地防災事業により、幹線水路の改修など農業水利施設の整備を行い、農業生産の維持及び農業経営の安定化を図ります。また、関連事業等により、ほ場整備や末端の用水路等の改修を行います。

●「日本型直接支払制度」を活用し、多面的機能の維持・発揮や耕作放棄地の発生防止など、集落ぐるみで地域農業を支える取り組みを支援します。

魅力ある農山漁村づくり

●地域住民とともに、課題を共有し、調査等を実施することで、農地や森林、漁場など農林水産業の持つ多面的機能への理解を深めます。

●鳥獣による農作物等の被害を防止するため、集落や猟友会、行政等で組織する小松島市有害鳥獣捕獲対策協議会を中心に、集落での防護・捕獲対策の強化や侵入防止柵の設置など、総合的な対策を強化します。

阿南工業高等専門学校との地域連携協定

●都市化や混住化が進行する農村地域において、安定的な農業経営や安全・安心な暮らしを実現するため、ハード・ソフト対策を組み合わせた防災・減災対策を推進します。

●里山は、水源かん養（水資源を蓄え、育み、守っている働き）・防災、生活環境の保全等の機能を有しており、それらの機能を維持していくため、産官学連携等により未利用資源等を活用したバイオマスエネルギーの有効利用を検討します。

中小企業の振興及び企業誘致の推進

●地場産業･既存企業と連携し、連絡相談体制の充実を図ります。市は、中小企業の実態把握に努め、国・県等と連携しながら適時適切な対応を行います。

　また、時代に即応した各種融資・補助金制度の活用斡旋を行い、経営基盤の強化と製造品出荷額の増加をめざします。

●市、商工会議所、企業をはじめ、国・県と連携を図りながら、起業家、ベンチャー企業の技術力や経営を支援する体制を整備し、新たな産業の育成を図ります。

●徳島小松島港赤石地区の遊休地等への企業立地を図るための情報発信を行い、県や国との連携による情報共有化を進め、企業ニーズに対応した積極的かつ戦略的な企業誘致活動を推進します。進出後も事業者が企業活動しやすいようフォローアップ体制を充実し、進出企業が安心できる環境づくりをめざします。

●商店主、住民、ＮＰＯ、商工会議所、行政等による中心市街地活性化検討会を中心に、住民と一体となって「まちの顔」となる中心市街地の活性化を促進します。

●まちのにぎわい創出や活性化を目的に、中心市街地の空き店舗対策と小松島市での創業支援対策を推進します。

市民の皆さんなどの役割

●地元の小売店や朝市、直販等での安全な農水産物による地産地消を心がけます。
●生産者は、安全・安心で良質な農林水産物の生産に努めます。
●農山漁村の風土・魅力をいかし、小松島市の魅力を発信します。
●仕事を始める人たちを、市民も支援します。

政策③　未来への活力を育むまちづくり

基本目標７　活気あふれるまちづくり

施　策　7-1 産業の振興とブランド産品育成

基本方針　7-1-2 新規雇用の場の確保

現況と課題

雇用の場の創出と労働環境の向上

本市の雇用状況として、有効求人倍率は回復傾向にはありますが、正規雇用者よりも非正規雇用者率が高く、企業が求める人材と求職者が求める仕事環境にミスマッチが生じています。非正規雇用の増加は、将来の不安につながり、ひいては未婚化にもつながることから、雇用関係が安定的に継続し、労働条件が改善、向上することが課題となっています。

小松島合同就職面接会

また、近年、地方を中心にＵ・Ｉ・Ｊターンの促進が図られており、人口減少が続く本市においても、都会へ流出した人材の呼び戻しや、都市部からの人材の取り込みも重要となっています。そのためには働く場の確保が重要であり、市内企業での雇用機会の創出・拡大を図っていくことが今後の課題です。女性や若者の多様な生活や働き方に対応した雇用環境の向上、グローバル化、ＩＣＴ化など、中小企業を巡る環境は日々刻々と変化しており、それらに対応するために支援を進めていく必要があります。

合同就職面接会参加者数

年度	参加者数	（うち事業所体験者）	就職内定者数
平成 26 年度	126 人	未実施	25 人
平成 27 年度	122 人	42 人	28 人

高齢者雇用の創出

本市では、団塊の世代のすべてが６５歳を迎えたことにより、高齢化率が３０％を超えています。知識、経験が豊富な高齢者をいかす雇用を創出していくことは、高齢者の生活基盤の経済的安定に寄

与し、介護予防の観点からも生きがいの向上や健康の増進等につながるとともに、市全体への活気をもたらすことになります。

生きがいや健康づくりのために仕事を続ける、あるいは、今後も仕事を続けたいという高齢者が増えており、現在はシルバー人材センター等がその役割を担っていますが、今後更なる高齢者が活躍できる場の創出が求められています。

シルバー人材センター会員数

年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
会員数	144 人	127 人	121 人	125 人	129 人

重要事項

◆安定した雇用関係の維持と労働環境の向上◆

「雇用関係が安定的に継続されるとともに、労働条件が改善、向上するように支援します。」

◆新規雇用創出に向けた環境整備◆

「ハローワーク・県・商工団体等と連携しながら雇用機会の創出を図り、企業が求める人材と求職者の求める仕事環境のミスマッチを是正していくことで、長期的な雇用を図ります。また、工場などの企業誘致は新規雇用創出効果が大きいため、情報発信を強化するなど、促進を図ります。」

◆高齢者雇用創出に向けた環境整備◆

「高齢者雇用創出に向けた環境整備に取り組みます。」

その他の取り組み

●市内事業所への就業を促進するため、市内事業所が一同に集まり、事業説明から、面接まで一貫して行う小松島合同就職面接会をハローワークと共同で開催し、市内就業者の増加をめざします。

●雇用のミスマッチによる就業機会の喪失や短期での離職を避けるため、面接前に事業所の仕事や雰囲気を体験する事業所見学バスツアーの開催など、長期安定的な雇用をめざします。

●関係機関が実施するU・I・Jターンフェアなどに参加し、県外からの就業者増加をめざします。

事業所見学

●企業立地促進法に基づく国･県の施策や市の企業誘致関連施策等により企業誘致を推進することで、市内での雇用機会創出を図ります。

●安定した雇用関係を維持するため、商工会議所等を通じて、中小企業者の経営に関する相談に応じるための中小企業診断士等の専門家を中小企業へ派遣し、アドバイスや指導を実施します。

●就業規則や賃金、解雇の問題やサービス残業などの労働個別相談等の実施により、雇用・労働問題に関する意識啓発及び雇用環境の向上を図ります。

●シルバー人材センターにコーディネーターを配置し、企業等が求める人材と高齢者が求める仕事内容をマッチングさせ高齢者の雇用創出をめざします。

市民の皆さんなどの役割

●自分の知識や経験、技能を活用し、積極的に就労の機会を求めていきます。

政策③　未来への活力を育むまちづくり

基本目標７　活気あふれるまちづくり

施　策　7-2 観光交流によるにぎわい創出

豊かな自然や歴史、港など地域資源を最大限にいかした体験型観光を行い、小松島市ならではの魅力発信を図ります。貴重な自然や歴史を感じるまちの景観の保全を図り、交流人口、定住人口の増加につなげます。

＜個別指標＞

成果指標の名称	単位	基準年度（平成 27 年度）	平成３３年度	備考
観光案内所年間利用数	人	3,615 人	4,500 人	総合戦略
日本遺産登録施設年間訪問者数（立江寺）	人	約８万人	約８万３千人	総合戦略
移住者数	人	１５人	５０人	総合戦略
年間観光客入込数（港まつり・客船入港・あいさい広場等）	人	77 万７千人	80 万５千人	総合戦略

赤石岸壁に入港したダイヤモンド・プリンセス号

政策③　未来への活力を育むまちづくり

基本目標７　活気あふれるまちづくり

施　策　7-2 観光交流によるにぎわい創出

基本方針　7-2-1 観光の振興

現況と課題

にぎわい創出のまちづくり

本市では、夏の風物詩として盛大に開催されている「小松島港まつり」の花火大会をはじめ、「はちはち狸まつり」や、食の祭典としての「こまつしま・うまいもん祭り」、「義経ドリームロード」を利用した地元有志による義経夢想祭など、家族連れで楽しめるイベントが数多く開催されています。

阿波踊り期間中は、毎日客船が寄港し、小松島港のお盆の風景として定着しており、お盆期間中以外にも客船寄港や海外からの寄港もあります。今後は、乗客の小松島市内での観光や買い物などの滞在時間の増加や海外からの客船寄港回数の増加が課題です。

義経夢想祭

地域資源をいかした観光振興

四国霊場８８ヶ所の１８番札所恩山寺、１９番札所立江寺をはじめ、金磯弁天山、源義経ゆかりの地として「義経ドリームロード」や「旗山義経騎馬像」などが本市の観光資源です。民話「阿波狸合戦」にまつわる狸の像は市内各地にあり、なかでもステーションパークには、世界一大きな銅像もあり、遊歩道に並ぶ愛嬌のある狸の石像とともに、訪れる人の目を楽しませてくれます。また、四国最大級の産直市「あいさい広場」は、１年を通して新鮮で安全・安心な商品が多く取りそろえられ、県内外から多くの観光客を集めています。さらに、本市は地下水が豊富に湧出しており、上質の飲料水として知られている所もあります。

たぬき広場のたぬき像

このような、身近な観光地や特産品などをＰＲする小松島市観光案内所を、ＪＲ南小松島駅舎内に開設しています。

今後は、本市の魅力を体験してもらうために、本市の豊かな自然や歴史、港など地域資源を積極的に PR し、観光資源として活用していくことが課題です。

小松島市観光案内所

移住・定住促進に向けた情報発信

人口減少を克服し、地方創生を推進するには、地方から大都市への人口流出に歯止めをかけ、地方への新しい人の流れを生み出すことが重要です。

そのためには、地方への移住を検討するうえでの不安・懸念となる、地域における雇用・就労、居住環境、生活の利便性や、地方移住に係る情報の提供が必要です。特に将来における人口減少抑止や社会経済活動を担う若者や子育て世帯など、都会から地方への移住定住を促す施策の体系的・一体的な推進が必要です。

地域おこし協力隊員による竹灯篭の展示

また、都市部の人材を地域の新たな担い手として受け入れ、若者の定住や地域の活性化などを促進することも重要です。本市では、平成２７年１０月に小松島市地域おこし協力隊員として３名を任命し、農林水産・商工・観光の振興、中心市街地の活性化などの活動に取り組んでいます。

重要事項

◆観光資源の多様な活用◆

「四国遍路をいかした観光資源づくりや地域ガイドによる多様な観光体験などを実施します。」

◆移住・定住促進に向けた情報発信◆

「都市圏等における移住希望者等への情報発信を強化し、情報提供･相談対応等にも取り組みます。」

その他の取り組み

●豪華客船の乗客に対しては、観光ボランティアガイドを活用した地元ツアーを推進し、免税店の開設等利便性の向上に取り組みます。

●小松島市観光案内所を起点とした徒歩での世界一の狸の銅像ガイドツアーなどの充実を図ります。

●特産品を国内外へＰＲするとともに、積極的に県内外でのイベントに参加し、特産品の魅力を伝えます。

●客船寄港時には、港に臨時観光案内所などを開設し、観光案内や特産品のＰＲを推進します。

●マスコットキャラクター「こまポン」を活用した観光ＰＲを推進します。

●「全国移住ナビ」や「住んでみんで徳島で！」等の移住･交流ウェブサイトにおいて、プロモーション動画や移住体験等、コンテンツの更なる充実を図り、小松島の魅力を全国に発信するとともに、移住・定住促進に向けた情報の提供等を行い、Ｕ・Ｉ・Ｊターンによる小松島市への居住を支援します。

●高速道路の整備等、環境の変化に即応できるよう関係団体と協調し、魅力ある観光振興を戦略的に進めます。

市民の皆さんなどの役割

●小松島市の魅力を、積極的にアピールします。

●観光客には、お接待の心でもてなします。